

## 会議開催概要

会議名	第5回 菊川市総合計画庁内策定委員会
日 時	平成 27 年 7 月 7 日 (火) 10:30~12:00
場 所	菊川市役所 201.202 会議室
出席者	副市長、教育長、他委員 9 名 計 11 名、事務局 3 名
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員長あいさつ</li> <li>3 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 菊川市版総合戦略の素案の検討について</li> <li>(2) 総合計画策定に伴う SWOT 分析結果報告</li> <li>(3) 総合計画策定に伴う「理念」の検討</li> <li>(4) 総合計画策定に伴う「将来像」の検討</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>
議事要旨	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会宣言</li> <li>・資料確認（机上に説明用資料 1－1、資料 1－4 を追加）</li> </ul> <p>2 委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方版総合戦略の素案について、6 月 30 日の総合計画審議会において提示したところ、非常に厳しい意見をいただきました。当市の弱みは特色がないこと、当市らしい目玉となる施策をどう盛り込むかというご指摘があり、交付金についても意見が集中しました。審議会委員からの新たな提案もあり、総合戦略について各部からの案も出揃ったので、委員の皆さんの知恵を出し合って、さらに練り上げて頂きたいと思います。</li> </ul> <p>総合計画については、各課から提案のあった SWOT 分析、議会・行政での SWOT 分析をまとめたものが揃いました。課題や方向性、総合計画の理念、将来像について議論をお願いします。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 菊川市版総合戦略策定に伴う素案の検討について</p> <p><b>【資料 1－1、資料 1－2、資料 1－3、資料 1－4】</b></p> <p>事務局：まず、各部からの新規事業の追加提案、職員提案の検討を行っていただき、ありがとうございました。本日の議論は以下の 2 点を中心をお願いします。</p> <p style="padding-left: 2em;">資料 1－3 の市の特色を活かした政策案について横断的なご議論をいただきたいと思います。</p> <p style="padding-left: 2em;">資料 1－4 の総合戦略の素案について、資料 1－1 との比較によるご議論をいただきたいと思います。</p> <p>事務局より資料 1－1～資料 1－4 の一括説明。</p> <p>(質疑)</p> <p>委員長：資料 1－1 と資料 1－4 の比較、資料 1－3 の 5 つの本市の特色についての内容</p>

について議論、ご意見を頂いていきます。まずは網羅的に整理した資料1-1とある程度、的を絞って整理した資料1-4の比較についていかがでしょうか。

委員 : 資料1-1の関係、1-4、移動率を改善し人口転出入のバランスの適正化とありますが、何を持って適正とするのでしょうか。

事務局 : 菊川市人口ビジョン②のバランスの適正化ですが、現在の転入転出の状況を見ると、近年では沿岸部からの転入が多く、若干転入が多くなっています。しかし先を見据えていくとおそらく転出が増えていくだろうと考えています。

現在は大卒者のUターンといった、20代前半の転入が非常に少なく、逆にこの世代の転出が多い状況で、市人口ビジョンの合計特殊出生率2.06を目指すには、ぜひ若い世代が増えていかなければなりません。その中でのバランスの適正化という意味で、抽象的ですが、事務局として、若い世代のUターンの増加、転出を減らしていくことを目指していきたいということです。転入と転出がイコールになれば適性ということではありません。

委員 : 社会増減は結果的にどうなるのですか。

事務局 : 2060年、5,000人アップを目指すようビジョンを作成しています。社会増については現状の30%アップを目標にしています。それによって転出超過を現在の70%に抑えるということがバランス(適正化)と考えています。

委員 : 2060年でも社会減少となるのでしょうか。

事務局 : 現在はそのような想定です。適正という言葉がそぐわない部分もあるので、書き方も含めて見直したいと思いますが、現時点よりも社会減少を抑制するという目標に変わりはないので、そこが分かるような表現に変えたいと思います。

委員 : バランスの適正化という言葉をもう少し分かりやすくした方が良いでしょう。

委員 : 資料1-1、3、「元気・魅力発信ホームページの充実の(新)子育て世代向けサイトの開設」について、当部で考えているのは、菊川市の良いところを市外の住民に周知するホームページを作って、地域イメージの向上や魅力化を訴求する、ということです。それが結果的に主に子育て世代向けサイトになるのではないかと考えています。子育て以外にも交通アクセス等も想定しているので、内容的には「地域イメージの向上、魅力化」の方の事業になるのではないのでしょうか。

事務局 : 事業の主旨、目的を再確認して、事業名とどこの項目に入れるかを見直すようにします。

委員長 : 内容と同時に、資料1-1と資料1-4のまとめ方についてもご意見をお願いします。

委員 : 資料1-4はイメージする市民像がかなり絞り込まれており、それ以外の市民が抜けるように見え、市の計画としては資料1-1の方が高齢者にも触れており、好ましく感じます。ただ、資料1-1の基本目標に関しては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に合わせ、「まち」「ひと」「しごと」の3つを順番に並べた方が分かりやすいのではないのでしょうか。

事務局 : 資料1-4の基本目標1、基本施策③では「健康に地域でくらすまち」として設定しており、基本目標も若い方から高齢者までが生き生きと暮らせるまちをイメージして「愛着と循環」を創るとしています。

審議会でも「ゆりかごから墓場まで」という施策の重要性が出ており、菊川で育ち就職し結婚し住み続けるという好循環を創るには、子どもへの施策が特に重要と考え、イメージする市民像を15歳までの子どもと記載しています。5年後の目標とイメージする市民像の部分は戦略に掲載しませんが、説明上分かりやすくするため資料に記載しているものとしてご理解をお願いします。

資料1-1の基本目標は国の基本的な方向性の形を踏襲したものです。資料1-4のように2つの基本目標が良いのか、それとも他のまとめ方が良いのか、菊川市らしく整理できるよう色々、ご意見をお願いします。

委員 : 最終的な総合戦略には記載しない部分だということですが、イメージする市民像のところは、確かに「墓場まで」の部分が抜けており、整合していないのではないのでしょうか。

委員 : 資料1-4の(新)奨学金制度の検討は出生率を高めることや金銭的困窮層向けの施策なら効果がありますが、移動率の改善には、つながらないのではないのでしょうか。このように相反する施策をどう位置づけていくのでしょうか。どこに力を置くのか、国全体の人口減少に歯止めをかけるのか、といったところを明確にしておかないと具体的な施策の検討は難しくなります。

事務局 : 地元企業との連携も含めた就労支援の意味合いで記載しています。市内企業への就労支援、Uターンによる移動率の改善を目的としており、金銭的困窮層向けの施策ではありません。職員提案のUターン特典制度を基にしており、記載箇所についても現在資料1-4で記載している「地域の教育環境の充実」から「移住・Uターン促進」のところへ記載し直すようにします。

また、効果については、他自治体での施策の事例を研究しながら事務局としてもさらに検討していくようにします。

委員長 : まち・ひと・しごと創生総合戦略、つまり「戦略」として、現在の事業レベルでいいのか再度検討をお願いします。小さい事業ばかりでなく、「菊川の人口減少に歯止めをかける」ために戦略を持って大きく行う事業についても、各部門で再度検討をお願いします。

委員 : 予算と人員はまず考慮せず、各課から事業を挙げてもらったところですが、再検討をお願いします。指摘された戦略を持った事業の再検討と合わせ、以下についても再考をお願いします。

別紙(資料1-1)、No.2「小学生フッ素塗布事業」、No.36「狭隘道路整備事業」については、既存事業のままです。既存事業を拡充することによって人口減少対策に繋がられる事業となるかといった視点で再検討をお願いします。No.9「英語力向上推進事業」、No.10「学校司書配置推進事業」、No.45「メタボ解消応援ミッション」については拡充されていますが、その効果として人口減少対策になるのか、再検討をお願いします。No.18「就労環境の向上」については、企業への働きかけ方など具体性を持った事業として再検討をお願いします。以上6つの事業については、17日までに検討をお願いします。

委員 : はじめの事業出しの段階では、数を多く出すことを主眼にして、言葉は悪いが「戦略」は考慮せず、無理をして出した感じがあります。

現状は事業レベルも様々であり、また、同内容の事業も散見されます。これらの精査や事業の深堀は、いつまでに行う必要がありますか。対外的なスケジュールもあると思います。そこを再度確認をお願いします。

事務局 : 全体スケジュールは、7月31日に次回総合計画審議会、それに向けて本日及び7月17日に庁内策定委員会を行い、審議会で事業内容を深堀し、案の段階として提示したい。8月には審議会で諮った内容を議会にかけ、9月にはパブリックコメント実施、10月末に一度完成とする予定です。本策定委員会終了後、再度詳細の日程を電子メールにて通知します。

委員 : 大日程は毎回配布し、会議等開催日時を記載するようにして下さい。

委員 : 重要な内容であるので、出来れば部長会などを活用して資料の事前説明を行って下さい。が指摘された戦略性を持った事業出しは、各課に挙げてもらうだけではなく、この策定委員会でも市の政策的視点でもって検討するべきでしょう。やはり1つ2つは「これを行えば人口が増える」といった菊川市独自の目玉施策を入れていく必要があると思います。

事務局 : 地方版総合戦略については当初予算、国の補正予算を視野に入れ議会対応も考え

ると、8月の全員協議会にパブコメ前提の案を出すようにしていきます。そのため、部長会や政策会議、急遽集まったの検討を行いながら進めたいと考えます。さらに議会からの人口問題に対しての政策提案を盛り込むかどうかについては、8月以降、各課と直接協議しながら進めていきます。ご指摘の戦略性のある事業については、この策定委員会で検討したいのですが、7月31日の審議会にかけないと間に合いません。厳しいスケジュールとなりますが、ぜひご意見をお願いします。総合計画は、10月以降、課長を入れた作業部会にして進めたいと思います。

委員 : 計画作成後に事業化していくためには、何度も検討して深堀が必要です。その結果、事業化されないこともあり得ますが、ご理解頂き、ご協力をお願いします。

委員 : 各回での資料や検討内容が、この先どうなっていくのかお示し下さい。また、各課からの事業についても、この会議で明確に取捨選択して行ってほしいと思います。

委員長 : 当然この委員会で取捨選択していきますが、その前に、各部長におかれては、経営を預かる立場で各部内での調整と判断をお願いします。

委員 : A L Tなどは、以前から行いたいと思っていた事業ですので、この際、あげてみた、という側面もあると思います。戦略性を持って事業出しをする上では、項目が多過ぎないでしょうか。項目をもっと絞った方が良いのではないのでしょうか。教育文化部としては、本当に行いたいのはI C Tだと思っています。

委員長 : 総合戦略と総合計画を並行して進めており、同じ方向を見ていく重要性はみなさんご理解のことと思います。しかし、総合戦略と総合計画の区分けについてはまだ整理できていないとも感じます。総合戦略は、あくまで「人口減少に歯止めをかける」ために戦略的に行うものです。

委員 : 基本目標、基本施策、事業展開とある中で、それぞれ出されている言葉が一般的なもので、事業が拡散していないでしょうか。基本施策部分の基本目標を達成するためのトータル的なプロジェクト名にする必要があると思います。その方が、第三者が見たときにも、菊川が行うことが明確に分かるのではないのでしょうか。

事務局 : 今、議論頂いているようなこともあり、資料1-1のまとめ方から資料1-4のまとめ方に変えています。このまとめ方についてもぜひご意見をお願いします。

委員 : 資料1-4の方向が良いと思います。ただ、まだ事業展開の方向性が多いと感じます。ここをさらにプロジェクトのみに絞っていき、さらに資料1-3の内容で補完する方向が戦略性という意味では良いのではないのでしょうか。

事務局 : 基本施策に目玉的な政策を入れていくのが目立つと思います。事業展開を絞っていく必要性も分かりますが、一方でKPI達成度合いによってPDCAしていくことが求められており、数値化しやすい事業も必要とも言えます。基本目標ごとに、例えばICT教育、シティプロモーションなどになるかと考えていますが、目玉となる施策を1つは入れ込み、他の事業とセットで考えていきたいと思っています。その整理については担当各課とさらに協議していくようにします。

委員 : 成果の評価をしていくのは難しいとは思いますが、しかし、本気で人口を増やすには、「これしかない」ということを宣言することも1つの方法ではないでしょうか。検討や研究といった表現だと、指標の立て方や評価の仕方も難しくなりますし、現実問題としても進捗は望めないでしょう。総合計画との違いを出す意味でも、思い切った計画とした方が総合戦略としては良いのではないのでしょうか。

事務局 : ご指摘のとおり、駅北で住宅Ohaと打ち出してしまえば、評価もしやすいし、開発事業者などの民間事業者の動きも活発になると思います。その打ち出し方の議論をここでお願いします。駅の北口については、駅周辺の構想との関係やJRとの協議の必要性等の側面もあり、現状は慎重に表現しています。市として、どのレベルの表現にするかが実際の人口増に繋がると考えています。産・学・官・金・労・言のうち、特に金融及びメディアとはある程度話をしてきましたが、駅北をどうするかが非常に重要だと言われています。

委員 : 「目玉」の必要性はよく分かりますが、反対の見方をすれば、総合戦略、人口減少対策は総花的でなければ、ということもあります。自然増減、社会増減、人口減少社会環境、それぞれへの対策が必要です。分野で言えば、全ての分野が対象です。様々な角度から取り組むことが相乗効果をもたらすと思います。実際の事業の効果としては、全庁的に取り組んでいくべきだと思います。

事務局 : この議題については、このままの資料で次回7月17日に継続協議することとし、次に移りたいと思います。17日以前にも事業の確認を行って頂き、17日は最終確認の場とします。事業に関しては、既存事業ではなく、「拡充」という面で見直して頂きます。

(2) 総合計画策定に伴うSWOT分析結果報告【資料2】

(3) 総合計画策定に伴う「理念」の検討【資料3】

(4) 総合計画策定に伴う「将来像」の検討【資料4】

事務局より資料の一括説明。

(質疑)

事務局 : 資料3の理念については、本日の委員会で決定したいと思っています。資料4の将来

像については、意見を反映した資料で17日に再度議論頂くようにします。資料2については、17日にも時間を取って議論頂くようにします。

委員長 : 新市まちづくり計画からのものを引き継ぐべきだという意見もありますが、いかがでしょうか。

委員 : 「理念」というものは度々変えるものではないと思います。

事務局 : 新市まちづくり計画の理念は「まちづくり」の理念として理解しています。必要ならば総合計画として定め直しても良いと思います。事務局としては継承する方向ですが、そこに関しても忌憚のないご意見をお願いします。

委員 : 新市まちづくり計画の策定時にも相当の議論を重ねており、継承で良いのではないのでしょうか。

委員 : 社会情勢の変化も当然あり、現在最大の問題となっている人口減少問題について考えなくても良いのでしょうか。

事務局 : 人口減少問題を筆頭に様々に社会情勢は変化していますが、人口問題は、施策目標として考えています。理念はまちづくりを行ううえでの根本的な考え方ということで理解しています。人口減少問題や少子高齢化問題への対処としては、理念ではなく将来像や施策として検討していくべきだと考えます。

委員長 : 理念については資料3のとおりでいかがでしょうか。次に将来像はどうでしょうか。「まち」よりは「都市」にして発展性の響きを持たせた方が良いのではないのでしょうか。最終的にどのような過程を経て決定していきますか。

事務局 : 現在の案を基に、今回と次回7月17日の委員会で、現在の案以外の新しい案も含めてご議論頂き、3案程度に絞って審議会に提示し、決定していきたいと思えます。将来像として、あまり長いキャッチフレーズではない方が良いと感じています。短いフレーズでより良い案があればぜひご提案をお願いします。

委員 : 「輝く笑顔・みどり」や「咲き誇る」というのは良いフレーズではないのでしょうか。

事務局 : 「みどり」には、魅力・環境風土・安全面など多様な要素が含まれます。また人口問題面では「居住都市」という言葉も出てきます。フレーズの長さ、意味、馴染みやすさ等々、多方面からの議論をお願いします。

資料2、4ページ目、基本構想部分については、来年の6月議会にかけたいと思

います。逆算すると基本構想骨子は8月の全員協議会にかけたいと思います。理念は本日決定としましたので、次回は将来像と基本目標をある程度固めたいと思います。

新たな案も含めて、次回の委員会で継続して協議して頂きます。

委員 : 資料2、4頁、基本目標の中の「特色をいかしたまち」、「みんなで取り組むまち」については、意味があいまいなので再考したいと思います。

委員 : 資料2の4頁には行政経営のことは入らないのですか。

事務局 : 文言としてどこかに入る可能性はありますが、基本目標には入らないものと考えています。

委員長 : 全庁的に取り組む重要な政策であるので、このメンバー全員で考え、ご意見をお願いします。

事務局 : 次回は7月17日9:30~12:00開催とします。7月31日の審議会前となりますので、この回で総合戦略・総合計画とも案を決めていきます。総合戦略の個別事業について再精査と資料1-3の目玉となる施策の検討をお願いします。総合計画については将来像3案程度と基本目標の整理を行います。

#### 4 その他

事務局 : 策定委員会の下部組織としての策定部会の開催予定について、6月もしくは7月初旬に予定しましたが、策定委員会でのSWOT部分の協議結果を報告することで、開催に代えさせていただきたいと思います。

基本目標の柱立てができれば、実行計画、具体的な事業の検討に入っていきますが、10年、20年先の菊川市のための取り組みについて、市長を交えた拡大策定委員会(10月6日)を開催する予定ですので、よろしくお願いします。

#### 5 閉会

副委員長 : 事務局には質、量ともに有意義な資料を準備いただき感謝します。人口減少そのものを考えたとき、人が生まれること、人に来て頂くこと、人が出て行かないことという視点で見えていき、具体の事業に落とし込んでいくためには、この場での活発な議論がとても重要になります。5年後、10年後、さらに未来の菊川のため、ここがポイントになりますので、「将来に夢が持てる政策」となるようがんばっていきたいと思います。

以上